

蒲生川支流下代官沢(仮称)

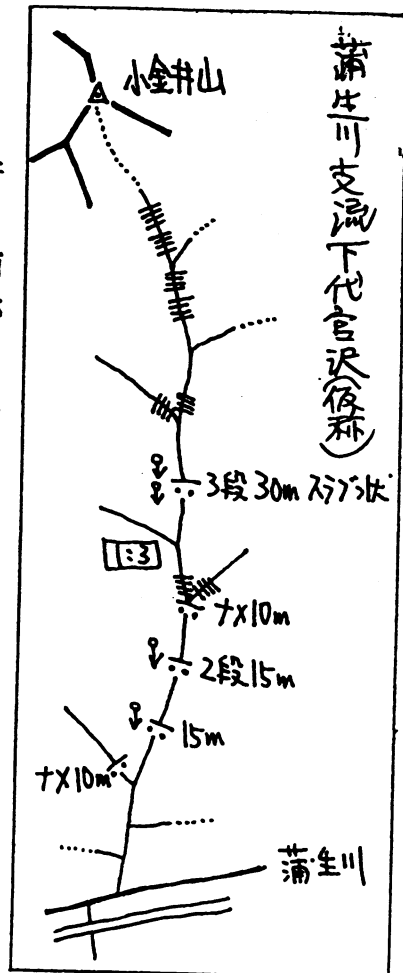
1995年7月29日

L1 記録

小金井山より真東に下降すると、すぐ小金井沢の源頭に出た。ナメの斜面が、滑り台のようにまっすぐに続いている。滝に近いナメの斜面を過ぎると、スラブ状となった3段30mの滝が現われた。中間部の草付きで区切って、2回の懸垂下降でクリアした。ナメ滝を越えると、15mの滝が2回現われるが、それぞれ懸垂下降する。

蒲生川に出た後はしばらく川ぞいに下り、左岸より流れ込んでいる沢を登り、林道に出て下降終了とする。(記・イ)

[タイム] 小金井山(11:25)→3段30m滝(12:35)→蒲生川(14:15)



蒲生川支流持場沢

1995年7月29日

L

蒲生川を渡渉して持場沢に入る。出合からすぐ大きな堰堤があり、ダム状になっている。左岸を伝い、浅くなった所で沢に降りる。F₁は青い岩のきれいな斜瀑。F₂はショルダーで乗り越える。F₃はザイルを出し、右岸から越えた。

8時35分、井戸の沢に入るパーティと別れ、持場沢へ。左岸から支沢が合流した先に長さ30mほどのスノーブリッジが現われた。一人ずつ素早く通過する。少し進むとまたスノーブリッジ。鈴木さんが偵察に出るが危ないとの判断で、右岸を高捲く。しかしなかなか下降できなかった。

10時15分、二俣。暑さで少しパテてくる。直角にカーブした連瀑を越えるとまたスノーブリッジ。ここは下をくぐりぬける。次の二俣を左に入ると、流れがだんだん細くなる。F₄ 5mを越すとスラブとなり、岸辺の草木を頼りに登る。日に焼けた岩の上を歩き続けたので、体力の消耗が激しい。沢の流れが途絶えた後は